



2006年11月22日

Auto-ID Lab. Japan、EPCとucodeの相互利用実証実験
～電子タグにおける複数コード利用の手法検討を実施～

Auto-ID Lab. Japan
所長 村井 純
学校法人慶應義塾常任理事
兼 慶應義塾大学環境情報学部教授

Auto-ID Lab. Japan は、ユビキタス ID センター（代表：坂村 健）の協力を得て、慶應義塾大学 SFC 研究所の SFC Open Research Forum 2006 (ORF2006)において、EPC(Electronic Product Code)と ucode の相互利用の実証実験を行います。

かねてより当ラボとユビキタス ID センターは、相互利用の実証について検討してまいりました。このたびの実証実験は、経済産業省 平成 18 年度「エネルギー使用合理化電子タグシステム開発調査事業(電子タグ実証実験事業)」の「マルチコード相互運用プロジェクト」として実現したもので、ORF2006 の来場者に電子タグを配布して、10台の UHF リーダで読み取るという、実利用と同規模レベルのコード混在環境下での実証実験を行います。

本実証実験では、電子タグを利用するシステムにおいてアプリケーションレベルにおいて、ソフトウェアのコーディングスキームに依存することなく設計が可能な環境の構築を目指しました。つまり、アプリケーションはタグに記載されたコードの違いに依存することなく自由に設計できます。

実現の手法としては、マルチコードインディケータを定義、マルチコードインディケータがタグのコーディングスキームを提示し、新たに設計したプラットフォームが、参照するデータベースをマルチコードインディケータに応じて選択する仕組みを構築しました。

これにより、マルチコード環境における、さまざまなアプリケーションの設計が自由に行えることを示唆し、電子タグの利用促進に大きく貢献しています。

なお ORF2006 では、入場券として、EPC(5500 枚)、ucode(400 枚)、独自コード(100 枚)が記載された計 6000 枚の UHF 帯の電子タグ (ISO18000-6type C タグ/GEN2 準拠)を流通させる計画で、分散したビル内にある会場 10 箇所にリーダ(ゲート)を設置しています。入場券は、公開実験に参加された方に配布し、参加申し込み時に、EPC、ucode、独自コードから選択していただき混在環境を作り出す計画です。

提供サービスとしては、エリア状況表示と、携帯メール情報配信を行っています。エリア状況表示サービスは、ORF 会場のエリアに、業種別に分類された来場者の人数を表示するもので、倉庫内の部材の位置管理システムなどへの利用をイメージしたサービスとなっています。一方、携帯メール情報配信は、来場者がゲートを通過するたびに、そのエリアの展示時情報などを携帯メールに配信するサービスで、電子タグと連携したハンディターミナルへの業務情報配信などのサービスをイメージしています。

以上

【問い合わせ先】

Auto-ID Lab. Japan 事務局

電話: 0466-49-3618 E-mail: info@autoidlab.jp